

トキソプラズマ感染症診断の現状

慶應義塾大学 医学部 感染症学教室

三木田 馨

トキソプラズマ感染症は、原虫である *Toxoplasma gondii* による感染症である。病型は先天性と後天性トキソプラズマ感染症に分けられ、前者は妊婦が初めて *T. gondii* に感染することで、垂直感染により胎児に発生する。水頭症、網脈絡膜炎による視力障害、脳内石灰化、精神運動機能障害が4大兆候とされている。後者については、免疫が正常な人へ感染した場合は不顕性感染を呈する 경우가多く、宿主の免疫応答によりシストを形成して潜伏感染するため、感染に気づかれない場合が多い。しかしながら、AIDS患者や臓器移植患者のような免疫不全患者においては、この潜伏している *T. gondii* の活性化により、トキソプラズマ脳炎、肺炎といった致死的な疾患が発生することがある。

本邦におけるトキソプラズマ抗体陽性率は、年齢・地域による差はあるものの、10-20%程度とされている。しかしながら、上述のように不顕性感染が主であるため、トキソプラズマ感染症に接する機会は多くはないと思われる。免疫不全患者におけるトキソプラズマ症の再燃は致死的な経過をたどることが多いが、症例数が多くないため、組織からのPCR法などの遺伝子増幅法を用いた検査法は保険収載されておらず、検査実施可能な施設も限られている。

本シンポジウムにおいては、人獣共通感染症であるトキソプラズマ感染症について概説し、自験例を紹介しつつ本症の診断の難しさ、また予防の重要性を考えていきたい。

Current situation of diagnosis of Toxoplasma Infection

Department of Infectious Diseases, Keio University School of Medicine

Kei Mikita

Summary Toxoplasma infection is caused by the protozoan *Toxoplasma gondii*. Although *Toxoplasma gondii* infection in immune-competent individuals is usually asymptomatic or causes a mild flu-like illness, it may become severe and can occasionally be fatal in immune-compromised people, such as AIDS or organ transplantation patients. This symposium provides an overview and update on diagnosis of patients with toxoplasma infection, and discusses about the effectiveness of primary and secondary prevention in pregnant women.

Key words: *toxoplasma gondii*, prevention, diagnosis, PCR